

「第5次沼津市障がい者計画(案)」、
「第7期沼津市障がい福祉計画及び第3期沼津市障がい児福祉計画(案)」に関する
意見募集の結果について

第5次沼津市障がい者計画(案)、第7期沼津市障がい福祉計画及び第3期沼津市障がい児福祉計画(案)についてパブリック・コメントを実施したところ、ご意見をいただきましたので、下記のとおり意見の内容及び市の考え方・対応をお示します。

○実施期間:令和5年12月25日(月)～令和6年1月26日(金)

○閲覧場所:市ホームページ、市役所(障がい福祉課、生活安心課)、市内各市民窓口事務所、市立図書館

○提出者数: 1名

○意見数: 67件

「第5次沼津市障がい者計画(案)」

No.	頁	意見の内容	市の考え方・対応	修正の有無
1	3	(6) 障害者総合支援法の改正と施行 本文中下から2行目、「障がいのある人等」とあります(2か所)が、この「等」は何を指すのでしょうか?	「等」は難病患者を指しますが、冒頭に定義しているため、削除します。	有
2	3	(7) 障害者優先調達推進法の施行 本文中「(前略) 公的機関には、物品やサービスを調達する際、障害者就労施設等から優先的・積極的に購入することを推進し、障がいのある人の自立の促進に資することとされています。」とありますが、「には」とした場合の述語としては、「義務付けられました」のような表現になると考えます。 そこで、法改正の内容が、公的機関への義務付けであるならば、末尾は「(前略) 資することが義務付けられました。」が妥当と考えます。また、義務付けでなく、あくまで努力目標にとどまるのであれば、「公的機関には」ではなく、「公的機関は」のほうが適切かと考えます。	適切な表現になるよう、「公的機関は、物品やサービスを調達する際、障害者就労施設等から優先的・積極的に購入することを推進し、障がいのある人の自立の促進に資することとされています。」に修正します。	有
3	7	(1) 計画の性格 (上記No.1と同様)本文中下から3行目、「障がいのある人等」とありますが、この「等」は何を指すのでしょうか?	手帳の所持者だけでなく、難病患者等を含める意味です。 法律内では定義されており、計画においても次のページで定義しますが、ここでは「障がいのある人等」とします。	無
4	10	(1) 各種手帳の交付状況 グラフの縦軸の単位が「人」となっていますが、下の表中(交付件数)の単位は「件」(本文中でも「件」)であり、不整合となっていますので、グラフ中の単位を「人」⇒「件」に改めたほうが良いと考えます。 なお、11ページ、12ページ、14ページ、15ページでも同様の事象が発生しているため、この10ページと同じように「人」⇒「件」に改め、16ページのグラフでは、縦軸の単位の記載がないことから「件」を入れたほうが良いと考えます。	表とグラフの単位については、「人」「人数」で統一します。それにあわせて、文章についても整理し、「人」「人数」に修正します。	有

5	11	<p>(2) 身体障がいのある人の状況 本文中3行目から「身体障害者手帳の交付状況を見ると、令和4年度末では7,034人となっています。そのうち65歳以上が70%以上を占めており、<u>構成比</u>は年々高まっていることから、高齡化が進んでいることがわかります。」とありますが、前ページ本文及び本ページ表との整合性を図るため「人」⇒「件」に改め、65歳以上の構成比であることを明らかにするために、「<u>その構成比</u>」としたほうが良いと考えます。</p>	<p>単位については、No.4と同様とします。 わかりやすい表現にするため、「<u>その構成比</u>」に修正します。</p>	有
6	14	<p>(3) 知的障がいのある人の状況 本文中下から2行目「(前略)18歳以上が1,609人で78.0%を占めており(以下略)」とありますが、このページ本文中において、ここだけ「人」になっている(他の箇所はすべて「件」)ことから、「人」⇒「件」に改めたほうが良いと考えます。</p>	<p>単位については、No.4と同様とします。</p>	有
7	16	<p>(4) 精神障がいのある人の状況 本文中下から2行目から「自立支援医療(精神通院)受給者証の交付件数は、令和2年度をピークに減少しており、令和4年度末では2,413人となっています。」とありますが、主語「交付件数は」に対応する述語の単位であることから、「人」⇒「件」に改めたほうが良いと考えます。</p>	<p>単位については、No.4と同様とします。</p>	有
8	17	<p>(5) 重複障がいのある人の状況 本文下から2行目中「療育手帳所持者総数における重複障がいのある人は14.0%で」とありますが、表中の構成比は「14.3%」となっており不整合が生じていますので、本文中の記載を「14.0%」⇒「14.3%」に改めるべきと考えます。</p>	<p>表中の数値と一致していないため、本文を「<u>14.3%</u>」に修正します。</p>	有
9	18	<p>(6) 難病等のある人の状況 ①本文中下から2行目から「難病等のある人は、増減を繰り返しながら推移しており、令和4年度末では1,419件で、平成30年度末と比較すると、139件増加しています。」とあり、主語「難病等のある人」に対して、以下は受給者証の交付件数の説明となっています。そこで、16ページと同様に、「<u>難病等のある人への受給者証交付件数は</u>」のように改めたほうが良いと考えます。 ②表欄外(右下部)に資料の出典説明が抜けています。他のページ(11ページほか)と同様に、「資料:沼津市(各年度3月31日現在)」を入れたほうが良いと考えます。</p>	<p>①単位についてはNo.4と同様とします。 ②資料の出典説明が抜けていましたので、表の右下に「<u>資料:静岡県(各年度3月31日現在)</u>」を加えます。</p>	有
10	20	<p>① 回答者の属性 表「障がい種別ごとの等級」における回答者数の3障がい合計は1,530人に対して、前ページの回収数は1,385件となっています。この両者に差異が生じているのは、重複障がいのある人がいるからという理解でいいでしょうか?</p>	<p>ご理解のとおりです。</p>	無

11	21	<p>② 介助・介護者（在宅者のみ）</p> <p>本文1番下の行中「精神障がい者では「配偶者」「母」が <u>16.1%</u>で最も高くなっています。」とありますが、下のグラフ中では「配偶者」「母」は <u>18.4%</u>となっており、不整合が生じていますので、ご確認ください。</p>	<p>表中の数値と一致していないため、本文を「<u>18.4%</u>」に修正します。</p>	有
12	22	<p>(1) 普段の過ごし方</p> <p>①見出しが「(1)普段の過ごし方」となっていますが、見出し符号が、段階別に第2章→2→(2)→③→(1)の順で付番されていますが、カッコつき数字<(2)>と(1)>が、別段階の見出しにもかかわらず、丸数字<③>の前後で使用されています。別段階の見出し符号のため、別の種類の符号を使用すべきです。全体を通して再度整理が必要と考えます。</p> <p>②本文2行目中「知的障がい者では約2割<u>と</u>低くなっています」とありますが、「約2割<u>と</u>」のほうが適切と考えます。理由としては、「<u>で</u>」でつなぐ場合には、その後他者との比較などを行う場合で、ただ事実だけを記載する場合は「<u>と</u>」とすることが一般的だと思います。</p> <p>③本文中3つめの段落中「身体障がい者と精神障がい者においても「一般就労または就学している」の割合が、「自宅で過ごしている」に次いで高くなっています。」とありますが、前の段落中の知的障がい者では「一般就労または就学している」の割合が最も高くなっており、身体障がい者と精神障がい者の状況とは異なっています。そのため、「<u>おいても</u>」とは言えないことから、「<u>おいては</u>」に改めたほうがいいと考えます。</p>	<p>①カッコつき数字が重複していましたので、1→(1)→①→<u>ア</u>となるよう全体を整理します。</p> <p>②「約2割<u>と</u>低くなっています」に修正します。</p> <p>③身体障がい者と精神障がい者においても、「自宅で過ごしている」を除いた選択肢を比較すると、「一般就労または就学している」の割合が高いということを表現したいため、現行の通りとします。</p>	有
13	24	<p>(3) 障がいのある人が働くために必要と思われる環境</p> <p>本文中下から2行目から「そのほかに、他の障がい種別と比較して、割合が高くなっている項目としては以下の項目が挙げられます。」として、3障がい各々について項目を列挙しています。ここでは、3障がい間で比較して最も割合が高い項目のみを記載すべきと考えますので、その要件に該当しない以下の2項目は削除したほうがいいと考えます。</p> <p>【身体障がい者】「通院などの保障があること」</p> <p>【知的障がい者】「賃金が適正であること」</p>	<p>「通院などの保障があること」は、知的障がい者と比べて、身体障がい者、精神障がい者ともに高い割合であり、「賃金が適正であること」は、身体障がい者と比べて、知的障がい者、精神障がい者ともに高い割合であることから、現行の通りとします。</p>	無
14	25	<p>(5) 通園・通学先に望むこと</p> <p>(上記No.12②と同様)本文2行目中「知的障がい者では、<u>26.0%</u>と<u>低く</u>、」とありますが、「<u>26.0%</u><u>と</u>」のほうが適切と考えます。</p>	<p>「<u>26.0%</u><u>と</u>低く」に修正します。</p>	有
15	26	<p>(1) 今後の生活の場</p> <p>本文中(1行目・2行目・3行目・5行目)において、割合を評価する書き方として、「多く」と記載されていますが、割合なので「高低(高い・低い)」で表記する</p>	<p>割合の評価のため、「<u>高い・低い</u>」の表記に統一します。</p>	有

		<p>のが適切であると考えます(20~24 ページでは「高い」「低い」となっています)。</p> <p>以降の複数のページにおいても同様のケースが見られますが、ここではページ番号のみを記載しますので、ご確認ください。(P27、P29、P31、P34、P35、P38、P40)</p>		
16	27	<p>(2) 今後の日中の過ごし方 (上記No.13と同様)本文2行目中「他の障がい種別と比較して、割合が高くなっている項目としては以下の項目が挙げられます。」として、3障がい各々について項目を列挙しています。ここでは、3障がい間で比較して最も割合が高い項目のみを記載すべきと考えますので、その要件に該当しない、精神障がい者の項目(障がい種別及び項目名)は削除したほうがいいと考えます。</p>	<p>「就労施設で仕事をしたい」は、身体障がい者と比べて、知的障がい者、精神障がい者ともに高い割合であり、「自宅でできる仕事をしたい」は、知的障がい者と比べて、身体障がい者、精神障がい者ともに高い割合であることから、現行の通りとします。</p>	無
17	31	<p>(1) 外出時の困りごと 本文中下から2行目から「知的障がい者と精神障がい者では、<中略> <u>共通して</u>1割を超えています。」とありますが、下線部は「<u>ともに</u>」のほうがよく使われる表現であると思います。</p>	<p>「<u>ともに</u>」に修正します。</p>	有
18	33	<p>(1) 災害時の避難の有無 ①見出しが「災害時の避難の有無」となっていますが、「避難する・しない」ではなく、ここでは「避難できるか・できないか」についての検証であることから、下線部は「<u>避難の可否</u>」のほうが適切と考えます。 ②本文中「いずれの障がい種別においても、<中略> 8割以上の方が避難できると回答しています。一方、知的障がい者では、「介助者がいても避難できない」が9.7%、「一人で避難できる」は29.2%となっており、避難支援を必要とする人が多いことが伺えます。」とあります。ここでは、前段の条件は満たしつつも、後段の傾向がみられるとことを言わんとしているので、「一方」は不適切であると考えます。また、後段において、避難支援を必要とする人が多いことのバックデータとして「一人で避難できる」人の割合を記載するのは整合性にかけていると考えます。そこで、後段の記載として、「ただし、知的障がい者では、「介助者がいても避難できない」が9.7%、「介助者がいれば避難できる」が57.4%となっており、避難支援を必要とする人の割合が高いことが伺えます。」としてはいかがでしょうか。</p>	<p>①「避難できますか」という設問に対する回答の集計であるため、「避難の可否」に修正します。 ②文章の内容から、適切な表現になるよう、「一方で…」から「<u>ただし</u>、知的障がい者では、「介助者がいても避難できない」が9.7%、「<u>介助者がいれば避難できる</u>」が57.4%となっており、避難支援を必要とする人の割合が高いことが伺えます。」に修正します。</p>	有
19	34	<p>(2) 災害時に市に期待すること 本文中1行目から「身体障がい者、精神障がい者では、「適切な情報提供」「障がいに関する医療や薬の確保」が4割前後で上位を占めています。」とありますが、精神障がい者の「障がいに関する医療や薬の確保」の割合は52.5%となっており、4割前後とは言えません。そこで、例えば、「適切な情報提供」</p>	<p>52.5%は4割前後と言えないため、冒頭の文を「適切な情報提供」「障がいに関する医療や薬の確保」が、<u>精神障がい者では5割前後、身体障がい者では4割前後</u>で上位を占めています。」に修正します。</p>	有

		「障がいに関する医療や薬の確保」が、精神障がい者では5割前後、身体障がい者では4割前後で上位を占めています。」としてはいかがでしょうか。		
20	37	(2) ヘルプマーク・ヘルプカードの利用の有無 本文中「利用している」の割合は、いずれの障がい種別においても、2割台となっており、＜以下略＞」とありますが、回答者全体の2割台ではなく、本ページ(1)で「知っている」うちの2割台であることから、本文の先頭に「 <u>上記(1)で「知っている」のうち「利用している」の割合は</u> 」のように下線部を入れたほうが適切であると考えます。	誤解が生じないよう、わかりやすく「 <u>上記(1)で「知っている」のうち「利用している」の割合は</u> 」に修正します。	有
21	38	(2) 差別や嫌な思いをした場所 ①(上記No.20と同様)本文の先頭に「 <u>上記(1)で「ある」のうち</u> 」を追加したほうが適切であると考えます。 ②本文中2行目に「4割半ば」とありますが、一般的には「4割台半ば」というのではないのでしょうか。	①誤解が生じないよう、わかりやすく「 <u>上記(1)で「ある」のうち</u> 」を追加します。 ②よりわかりやすい表現にするため、「4割 <u>台半ば</u> 」に修正します。	有
22	41	(3) 調査結果からみる現状と課題 この(3)では、「(2)調査結果概要」(20 ページ～40 ページ)における、「①回答者の属性」から「⑬新型コロナウイルスについて」までの分析内容をまとめて掲載しているものですが、各項目ごとに掲載ページを記載したほうが親切(見やすい)だと思います(例:①回答者の属性(20～21 ページ))。	わかりやすくするため、該当項目の掲載ページを記載します。	有
23	41	① 回答者の属性 本文2行目中「知的障がい者は30～50歳代が4割 <u>半</u> 」とありますが、下線部のような使い方はほとんど見られないと思うので「4割 <u>台半ば</u> 」のほうが適切ではないかと考えます。	よりわかりやすい表現にするため、「4割 <u>台半ば</u> 」に修正します。	有
24	42	⑤ 相談ごと ①(上記No.23と同様)本文1行目中に「2割 <u>半</u> 」、2行目中に「5割 <u>半</u> 」とありますが、それぞれ「2割 <u>台半ば</u> 」、「5割 <u>台半ば</u> 」のほうが適切ではないかと考えます。 ②本文2～3行目に「精神障がい者では「十分な収入があるか」と「親がいなくなった時に生活できるか」が3割 <u>強</u> など」とありますが、「3割 <u>強</u> 」の前に「ともに」を挿入して「 <u>ともに3割強</u> 」としたほうが、より好ましいと考えます。 ③この項目は、2つのセンテンスからなっていますが、調査結果の説明(28～29 ページ)の順番に合わせて、2つのセンテンスの順番を入れ替えて、「現状の相談体制について＜中略＞充実が求められます。また、将来の悩み事は、＜中略＞多岐にわたっていることが伺えます。」としたほうが、より好ましいと考えます。	①よりわかりやすい表現にするため、それぞれ「2割 <u>台半ば</u> 」「5割 <u>台半ば</u> 」に修正します。 ②わかりやすい表現にするため、「 <u>ともに3割強</u> 」に修正します。 ③調査結果の説明との順番に合わせた表記に修正します。	有
25	42	⑧ 地域とのかかわり 本文中下から2行目から「市民への障がいや障がい	わかりやすい表現にするため、「 <u>障がいや障がいのある人への市民の理解促進</u> が課題です」に修	有

		のある人への理解促進が課題です。」とありますが、「への」が2度使用されていてわかりにくい表現になっていることから、「障がいや障がいのある人への市民の理解促進が課題です。」としたらどうでしょうか。	正します。	
26	45	基本目標3の本文中1番下の行に「インクルーシブ教育」と専門用語が登場しますが、このページにおいて簡単な用語説明を入れるか、参照するページ数を示す(77 ページ参照)かしたほうが親切であると考えます。	計画書の巻末に「資料編 用語集」を掲載予定であり、「インクルーシブ教育」も含まれます。	無
27	49	(2) 権利擁護、成年後見制度の利用促進 本文2行目中「成年後見制度の周知と活用促進に努めます」とありますが、見出しに合わせて「 <u>利用促進</u> に努めます」としたらどうでしょうか。	見出しと統一した表現にするため、「 <u>利用促進</u> 」に修正します。	有
28	50	① 「障害者週間市民の集い」の充実と一般市民の参加者拡大 本文1行目中「 <u>市民に障がいに関する正しい理解と認識を深めるため</u> 」とありますが、下線部は「 <u>市民の</u> 」が適切であると考えます。	適切な表現にするため、「 <u>市民の障がいに関する正しい理解と認識を深めるため</u> 」に修正します。	有
29	50	④ 身体障害者補助犬に対する理解の促進 本文2行目中「 <u>市民への理解の普及に努めます</u> 」とありますが、下線部は見出しに合わせて「 <u>市民の理解の促進</u> 」としたらどうでしょうか。	見出しと統一した表現にするため、「 <u>市民の理解促進</u> に努めます」に修正します。	有
30	53	(1) 交流機会の促進 見出しが「交流機会の促進」となっていますが、「機会の促進」という表現はあまり見かけないと思います。「機会の創出」あるいは「機会の拡大」という表現のほうが適切ではないでしょうか。	「3 交流・ふれあいの促進」の説明文にある「…交流する機会をつくります」に合わせ、見出しを「(1) 交流機会の <u>創出</u> 」に修正します。	有
31	53	② 地域社会への参加の促進 見出しが「 <u>地域社会への参加の促進</u> 」となっていますが、下線部分は、本文中で使用している「 <u>地域活動</u> 」としたらどうでしょうか。	参加する場として、広義に捉え、現行の通りとします。	無
32	55	(2) 各種団体との連携強化 本文中「障がいのある人を支援する活動が効果的に行われるため、<中略> 各種団体との連携強化を図ります。」とありますが、下線部は「 <u>行われるよう</u> 」のほうが適切であると考えます。	適切な表現にするため、「効果的に <u>行われるよう</u> 」に修正します。	有
33	60	(1) 福祉マンパワーの確保・育成 本文中「<前略> サービス提供事業者に対しての専門職種人材の確保 <中略> 各種研修会の情報を提供し、参加促進を図ります。」とありますが、「サービス提供事業者に対して」は各種研修会以下にかかってくることから、下線部は、「の」ではなく、「」が適切であると考えます。	適切な表現にするため、「サービス事業者に対して、」に修正します。	有
34	61	4 生活安定施策の充実 本文中「障がいのある人が地域で安心して生活していく <u>ために</u> 、経済的に安定していることは不可欠の要素です。」とありますが、「障がいのある人が地域で安心して生活していく <u>ために</u> は、経済的に安定し	わかりやすい表現にするため、「障がいのある人が地域で安心して生活していく <u>ためには</u> 、経済的に安定していることは不可欠な要素です。」に修正します。	有

		ていることが不可欠な要素です。」のような表現のほ うが多用されるものではないでしょうか。		
35	61	② 支援制度の充実 本文2行目中「国や県に <u>要請</u> します。」とありますが、 下線部は「 <u>要望</u> 」が適切と考えます。	どちらも求める意味ですが、より求める強さが強い「 <u>要請</u> 」のままとします。	無
36	63	④ 保健分野の専門職の確保 本文中「保健分野における施策を <u>充実</u> するため、< 中略> 人材確保を図ります。」とありますが、下線部 は「 <u>充実させる</u> 」のほうが適切であると考えます。	適切な表現にするため、「保健分野における施策 を <u>充実させる</u> ため、」に修正します。	有
37	65	(1) 総合的相談支援体制の充実 本文中「<前略> 多様な支援につなぐことができ るよう、総合的相談支援体制を <u>充実</u> します。」とあり ますが、下線部は「 <u>充実させます</u> 」のほうが適切であ ると考えます。	適切な表現にするため、「総合的相談支援体制 を <u>充実させます</u> 」に修正します。	有
38	66	① 専門的知識を持った相談員の設置 見出し中で「 <u>相談員の設置</u> 」、本文中で「 <u>相談員を 設置</u> 」とありますが、「設置」は団体や組織の場合に 使用するものであり、個人の場合は「 <u>配置</u> 」が適切と 考えます。	適切な表現である「 <u>相談員の配置</u> 」、「 <u>相談員を 配置し</u> 」に修正します。	有
39	66	(4) 地域生活支援拠点体制の整備 本文中「<前略> <u>平時</u> や夜間休日等における支 援体制の充実を図ります。」とありますが、「平時」は 一般に「戦争の起きていない時」のことであるのでそ ぐわらない表現であると考えます。この場合、「平時や 夜間休日等における」を削除してもいいのではない かと考えます(意味は通じます)。	平日や日中に限らないという意味を表現するた め、「 <u>夜間・休日問わず</u> 支援体制の充実を図りま す」に修正します。	有
40	67	① グループホームの整備の促進 本文中「<前略> 福祉サービス提供事業者による グループホームの整備促進を図ります。」とありま すが、市の立場として「 <u>図る</u> 」でいいのでしょうか。「支 援します」のほうがいいのではないのでしょうか。	「福祉サービス提供事業者によるグループホーム の <u>整備を支援</u> します」に修正します。	有
41	68	① 既存施設のバリアフリー化の促進 本文中「 <u>既存の公共施設</u> にスロープや <中略> 案内・誘導設備など施設整備に努めるとともに、<以下略> 」とありますが、下線部の「に」がどこにかかっているのかがわかりません。そのため、「 <u>既存の公共施設</u> におけるスロープや <中略> 案内・誘導設備などの施設整備に努めるとともに、<以下略> 」のようにしたらいかがでしょうか。	わかりやすい表現にするため、「 <u>既存の公共施設 における</u> スロープや <中略> 案内・誘導設備な どの <u>施設</u> 整備に努める」に修正します。	有
42	73	② 感染症予防対策 ①一つ前の項目である「①感染症対策の徹底」と、 この「②感染症予防対策」との相違、二つに分ける 意図がよくわかりません。 ②本文中「 <u>感染症予防対策を的確かつ迅速に実施</u> するため」とありますが、予防は常時行っているもの であることから、下線部の「 <u>迅速に実施する</u> 」という 表現はふさわしくないで、「 <u>迅速に</u> 」を削り、「 <u>的確 に実施</u> するため」でいいと思います。	①「①感染症対策の徹底」は障がい福祉サービ ス事業所における感染症対策について抜き出し たものです。 ②予防は常に行っていくものであるため、「 <u>的確 に実施</u> するため」に修正します。	有

43	73	<p>③ 感染症流行時の支援</p> <p>見出しが「感染症流行時の支援」となっていますが、流行してからでなく発生段階での対応が必要であり、市には「支援」というサポート的な立場でなく、主体的な対応が求められていると思うので、この項目の見出しについて、本文中の用語を用いて「<u>感染症発生時の対応</u>」のほうが適切であると考えます。</p>	見出しと説明文を統一した表現にするため、見出しを「③ <u>感染症発生時の対応</u> 」に修正します。	有
44	77	<p>(1) 教育相談・進路相談等の充実</p> <p>本文2行目中「障がいのある児童・生徒や保護者の意向に適切に対応するよう、」とありますが、下線部は「<u>できる</u>」のほうが適切と考えます(本ページ「③小・中学校と就学支援委員会との連携」参照)。</p>	「対応 <u>できる</u> よう」に修正します。	有
45	77	<p>② 相談の充実</p> <p>(上記No.44と同様)本文1行目中「生活上の諸問題に対応するよう、」とありますが、下線部は「<u>できる</u>」のほうが適切と考えます(本ページ「③小・中学校と就学支援委員会との連携」参照)。</p>	「対応 <u>できる</u> よう」に修正します。	有
46	81	<p>(1) 福祉的就労の促進</p> <p>本文1行目中「<u>一般の就労</u>が困難な障がいのある人」とありますが、本ページ中に3箇所同様の記載がありますが、他の2箇所では「<u>一般就労</u>」となっています。表現を統一したほうがいいのではないのでしょうか。</p>	統一した表現にするため、(1)本文を「 <u>一般就労</u> 」に修正します。	有
47	83	<p>1 生涯学習・スポーツ等への参加促進</p> <p>①本文1行目中「ゆとりや潤いのある生活を送るため、生涯学習機会の充実を図ります。」とありますが、下線部は「<u>送れるよう</u>」のほうが適切であると考えます。</p> <p>②本文3～4行目中「また、気軽に文化芸術活動やスポーツ・レクリエーション活動などに<u>参加できる</u>よう、障がいがあっても<u>参加できる</u>環境づくりや配慮を推進します。」とありますが、「参加できる」が繰り返し使用されていることから、次のような書き方ではどうでしょうか。</p> <p>「また、障がいがあっても気軽に文化芸術活動やスポーツ・レクリエーション活動などに参加できるような環境づくりや配慮を推進します。」</p>	<p>①「ゆとりや潤いのある生活を<u>送れるよう</u>」に修正します。</p> <p>②「参加できる」が重複しないよう、本文3～4行を「また、<u>障がいがあっても</u>気軽に文化芸術活動やスポーツ・レクリエーション活動等に参加できる<u>ような</u>環境づくりや配慮を推進します。」に修正します。</p>	有
48	83	<p>② スポーツ行事等への参加促進</p> <p>本文1～2行目中「障がい者スポーツ教室<u>など</u>において、手話通訳者派遣や移動支援サービスの提供等により、障がいのある人の参加を促進します。」とあります。下線部の「<u>など</u>において」という表現により、本来とは少し異なる趣旨の文章となっていることから、次のような書き方はどうでしょうか。</p> <p>「手話通訳者派遣や移動支援サービスの提供等により、障がいのある人の障がい者スポーツ教室等への参加を促進します。」</p>	わかりやすい表現にするため、本文1～2行目を「手話通訳者派遣や移動支援サービスの提供等により、 <u>障がいのある人の障がい者スポーツ教室等への参加</u> を促進します。」に修正します。	有
49	84	<p>(2) スポーツ・学習への参加の環境整備</p>	①「の」が重複しないよう、見出しを「(2) スポ	有

		<p>①見出しにおいて、参加の前後に「の」があり、少し回りくどい言い回しとなっていることから、「スポーツ・学習への参加に向けた環境整備」としてはいかがでしょうか。</p> <p>②本文1行目中「障がいのある人のスポーツや学習活動の参加を促進するため、」とありますが、「学習活動への参加」のほうが適切であると考えます。</p>	<p>ーツ・学習への参加に<u>向け</u>た環境整備」に修正します。</p> <p>②適切な表現にするため、「スポーツや学習活動への参加」に修正します。</p>	
--	--	--	---	--

「第7期沼津市障がい福祉計画及び第3期沼津市障がい児福祉計画(案)」

No.	頁	意見の内容	市の考え方・対応	修正の有無
1	5	<p>1 福祉施設入所者の地域生活への移行</p> <p>表の1番下の行の項目として「令和6年度から令和8年度末までに施設を退所した人のうち、地域移行した人の累計」とありますが、</p> <p>①令和8年度末までと記載するのであれば、それに対応して、たとえば令和6年度当初からのように記載する必要があるのではないのでしょうか。あるいは、「令和6年度から令和8年度の間」という書き方もあるのではないのでしょうか。</p> <p>②「退所した」「移行した」と、過去形の表現となっていますが、計画策定時点においては未来の時点であることから、「退所する」「移行する」ではないのでしょうか。</p>	<p>①成果目標としては令和8年度末時点をもって設定するものであるため、わかりやすいように「末」を付けているものです。末に当初をつけるかどうかについて、同様の表現について確認したところ、必ずしも当初～末という表記が一般的ではないことから、現行のままとさせていただきます。</p> <p>②「退所する」「移行する」に修正します。</p>	有
2	12	<p>(1) 訪問系サービス</p> <p>サービスの見込量の表において、</p> <p>①14 ページ(日中活動系サービスの見込量)の表と同様に、上段が人数・下段が時間数のほうがいいのではないのでしょうか(いずれにしても統一したほうがいいと思います)。</p> <p>②表右上欄外の表記が「1月当たり」となっていますが、これも14 ページ(「1月当たりの人数及び延べ利用日数」と同様の記載方法のほうがいいと思います(このページでは日数ではなく時間数ですが)。</p> <p>③令和4年度実績値の記載において、居宅介護以外のサービスについて、「時間分」の「分」が抜けています。</p>	<p>①上段を人数・下段を時間数に修正します。</p> <p>②「1月当たりの人数及び延べ利用時間数」に修正します。</p> <p>③実績値欄に分を追加します。</p>	有
3	14	<p>④ 短期入所(ショートステイ)</p> <p>本文中「<前略> 障害者支援施設等に短期間入所し、入浴、排せつおよび食事等の介護、その他必要な支援を行います。」とありますが、下線部は「入所し」ではなく「入所させ」が適切と考えます(サービス提供者側の視点での説明であるため)。</p>	<p>ご指摘のとおり、サービス提供側の視点の説明であるため、「入所し」より「入所させ」の方が適切です。しかし、サービスを利用する側から文章を理解すると、「入所させられる」という捉え方をされる恐れがありますので、現行の通りとします。</p>	無
4	14	<p><サービスの見込量(表)></p> <p>①「就労選択支援」の令和4年度から令和6年度までの人数の表記が「-」となっており、これは「0人」という意味だと思いますが、12 ページ(訪問系サー</p>	<p>①「就労選択支援」は令和7年10月開始予定のサービスであり、利用者がいないというだけではなく、制度が開始していないことを踏まえ、0人ではなく「-」表記として使い分けをしております。</p>	無

		<p>ビスの見込量)の表では、「0人」の場合も「0人」と記載していますので、表示方法を統一したほうがいいと思います。また、この就労選択支援のサービス見込量として、令和6年度までは0人にもかかわらず、令和7・8年度に 69 人を見込んでいる根拠(考え方)はどのようなものですか？</p> <p>②「短期入所(福祉型)」の見込量について、令和4年度の14人・80日分から、令和8年度には36人・212日分と、人数・日数ともに2.5倍以上に増加を見込んでいる根拠(考え方)はどのようなものですか？</p>	<p>利用者の見込みについては、国の通知に基づき、就労継続支援B型の新規利用者が全員利用するものとして見込んでおります。</p> <p>②「短期入所(福祉型)」の見込量については、コロナ禍により令和元年度以降減傾向にありました。コロナ禍の5類への移行など、短期入所の需要がコロナ禍前程度まで増加するものと見込んでいます。</p>	
5	15	<p>(3) 居住系サービス</p> <p>サービスの見込量の表において、「自立生活援助」の見込量について、令和4年度実績0人、令和5年度見込1人から、令和6年度に5人に急増し、その後も、令和7年度6人、令和8年度7人と漸増を見込んでいる根拠(考え方)はどのようなものですか？</p>	<p>「自立生活援助」については、施設入所者の地域移行において、重要なサービスであるため、本計画における施設退所者数の目標、過去における本サービスの実績等をもとに、増加を見込んだものです。</p>	無
6	15	<p>③ 地域相談支援(地域定着支援)</p> <p>本文中2行目に「<前略> 緊急の事態等に相談、その他必要な支援を行います。」とありますが、「<u>事態等に関する相談</u>」が適切と考えます(同ページの②地域相談支援(地域移行支援)において、「<u>活動に関する相談</u>、その他必要な支援を行います。」との記載があります)。</p>	<p>地域定着支援は緊急の事態等が生じた場合に相談、その他必要な支援を行うものであるため、現行の通りとします。</p>	無
7	18	<p>(1) 障がい児に係るサービス</p> <p>サービスの見込量の表において、</p> <p>①1番上の表において、表右上欄外の表記が「1月当たり」となっていますが、14ページ(「1月当たりの人数及び延べ利用日数」と同様の記載方法のほうがいいと思います。</p> <p>②1番上の表中、「保育所等訪問支援」の見込量について令和4年度の6人・8日分から、令和8年度には18人・32日分と、人数が3倍に、日数が4倍に増加を見込んでいる根拠(考え方)はどのようなものですか？</p> <p>③1番上の表中、「医療型児童発達支援」と「居宅訪問型児童発達支援」について、両者とも令和4年度実績及び令和5年度見込が0人・0日分から、「医療型児童発達支援」は令和6～8年度も0人・0日分と見込んでいるのに対して、「居宅訪問型児童発達支援」は令和6～8年度の各年度とも2人・15日分を見込んでいる根拠(考え方)はどのようなものですか？(両者の相違)</p> <p>④2番目の表中、「障害児相談支援」の見込量について、令和4年度実績(325人)から令和5年度見込(345人)では20人増に対して、令和6年度以降の毎年度について、対前年度比で50人増と大幅</p>	<p>サービスの見込量の表において、</p> <p>①「1月当たり」の人数及び延べ利用日数」に修正します。</p> <p>②「保育所等訪問支援」の令和5年度における実績等から見込んだものです。</p> <p>③「医療型児童発達支援」は、現時点で県内に1事業所しかありません。医療的ケアが必要な児童が遠隔地に日常的に通所することが困難であり、利用の見込みがないことから計上しておりません。「居宅訪問型児童発達支援」については、市内に事業所があり、現時点では利用者がおられません。過去の利用実績があります。本市において利用が今後生じる可能性があることから見込んだものです。</p> <p>④新規事業所の開設などを踏まえて見込んだものです。</p> <p>⑤国の指針において、本項目が年間の見込み数を記載することとなっていることなどから、現行の通りとします。</p>	有

		<p>増加を見込んでいる根拠(考え方)はどのようなものですか?</p> <p>⑤3番目の表において、表右上欄外の表記が「1年当たり」となっていますが、コーディネーターの配置人数であることから、「各年度末時点」のような表記のほうがいいのではないのでしょうか。</p>		
8	21	<p>(2) 相談支援事業</p> <p>サービスの見込量の表において、表右上欄外の表記が「1年当たり」となっていますが、事業所箇所数であることから、「各年度末時点」のような表記のほうがいいのではないのでしょうか。</p>	<p>本事業は年間を通じて市が委託するものであるため、現行の通りとします。</p>	無
9	21	<p>(4) 意思疎通支援事業</p> <p>サービスの見込量の表において、表右上欄外の表記が「1年当たり」となっていますが、「専任手話通訳者設置」は、この表記には該当しないことから、たとえば「1年当たり(専任手話通訳者設置は各年度末時点)」というような表記(2種類を並記する方法もありますが)のほうがいいのではないのでしょうか。</p>	<p>専任手話通訳者は年間を通じて設置しているため、現行の通りとします。</p>	無
10	22	<p>(5) 日常生活用具給付等事業</p> <p>①事業の説明の2行目中「給付または貸与を行います」とあります。本ページに列挙されている①介護・訓練支援用具から⑤排せつ管理支援用具の説明では、すべて「給付します」となっていますが、日常生活用具給付等事業では、この①～⑤以外に「貸与」を行う用具があるということでしょうか。</p> <p>②サービスの見込量の表中において、「在宅療養等支援用具」と「情報・意思疎通支援用具」が令和4年度実績から令和5年度見込において大幅に増加しているのは何か特別な理由があるのでしょうか。また、R4→R5で大幅増にもかかわらず、令和6年度～8年度の見込では、前者は横並び、後者は漸増となっていることから、R4→R5の大幅増が特別なものだったということでしょうか。</p>	<p>①日常生活用具について、福祉電話を貸与中のケースがあるため、現行の通りとします。</p> <p>②日常生活用具については、耐用年数に基づく給付制限があります。そのため、年度によっては、給付申請が増減することがあり、令和5年度の数値は年度途中までの実績が反映されたものです。</p>	無
11	23	<p>(6) 手話奉仕員養成事業</p> <p>事業の説明文の書き方だと、「日常会話程度の手話表現技術を習得した手話奉仕員を養成」となっていることから、初心者から手話奉仕員を養成していくのではなく、すでに「日常生活程度の手話表現技術を習得して、すでに「手話奉仕員」となっている者を養成する事業というように理解できますが、それでいいですか。その場合には、その手話奉仕員を、より高いレベルにまで引き上げるために手話講習会を開催するというものでいいですか。(文章がわかりにくいです)</p>	<p>「習得した」の書きぶりは国の実施要綱上の記載に準じているため、現行の通りとします。なお、本事業は、初心者を対象としています。</p>	無
12	23	<p>(7) 移動支援事業</p> <p>サービスの見込量の表において、</p> <p>①「車両支援型」が、令和4年度実績(70回)から</p>	<p>サービスの見込量の表において、</p> <p>①本サービスは一人につき、年間最大24回まで利用可能なサービスです。令和5年度は実績が</p>	無

		<p>令和5年度見込(48回)において大幅減となっているにもかかわらず、R5(48回)→R6(67回)と大幅増を見込んでいるのはどのような根拠(考え方)によるものですか。</p> <p>②「送迎支援型」が、令和4年度実績の23回から令和5年度見込では746回へと30倍以上の大幅増を見込んでいるのは何か特別な理由があるのでしょうか。また、令和6年度見込でも926回と、R5→R6で180回増を見込むものの、令和6～8年度は横ばいと見込むのはどのような根拠(考え方)によるものですか。</p>	<p>ら減を見込んだものですが、今後の利用者数の増加や、外出支援であり、基本的には上限まで利用することが想定されることなどから、令和6年度以降は増加を見込んでおります。</p> <p>②サービス提供事業所が撤退したことから、令和4年度実績は過去に比べ大幅に減少しました。現在は他のサービス提供事業所により利用回数が増加しております。令和6年度についても新規利用者の増加等を見込んでおりますが、対象児童の卒業などに伴い、令和7年度以降を横ばいと見込んだものです。</p>	
13	24	<p>(8) 地域活動支援センター (上記No.8と同様)サービスの見込量の表において、表右上欄外の表記が「1年当たり」となっていますが、事業所箇所数であることから、「各年度末時点」のような表記のほうがいいのではないのでしょうか。</p>	<p>本事業は年間を通じて市が委託するものであるため、現行の通りとします。</p>	無
14	24	<p>(9) 見込量確保のための方策 本文3行目～4行目に「サービス提供事業所の拡大に努めます」とありますが、この書き方だと、事業所の規模を大きくするという意味と理解します。もし、市の意図が、サービス提供事業所の数を増やすということであるならば、「事業所数の拡大」のほうが適切と考えます。</p>	<p>事業所数の増加のほか、サービス提供に係る従事者の増、サービス提供地域の拡大等についても、見込量確保のために必要であることから、「<u>事業所数の増加等</u>」に修正します。</p>	有
15	25	<p>(1) 日常生活支援 サービスの見込量の表において、「障害者活動支援(見守り支援型)」の実人数が、令和4年度実績の146人から令和5年度見込の149人では3人増ですが、令和6年度見込は158人でR5→R6で9人増と、増加人数が3倍増と見込んでいるのはどのような根拠(考え方)によるものですか。</p>	<p>特別支援学校の卒業者など、新規利用者を見込んだものです。</p>	無
16	25	<p>② レクリエーション活動等支援 本文3行目中「知的に障がいのある人」とありますが、「知的障がいのある人」のほうが一般的な使い方ではないのでしょうか。</p>	<p>「<u>知的障がいのある人</u>」に修正します。</p>	有
17	26	<p><サービスの見込量(表)> サービスの見込量の表において、「スポーツ教室」について、延べ人数が、令和4年度実績の76人から令和5年度見込の70人へ6人減にもかかわらず、令和6年度見込は140人と、R5→R6で倍増(講座回数はR4～R8において7回で増減なし)を見込んでいるのはどのような根拠(考え方)によるものですか。</p>	<p>スポーツ教室における定員数を見込んだものです。</p>	無
18	26	<p>(3) 見込量確保のための方策 (上記No.14と同様)本文4行目に「サービス提供事業所の拡大に努めます」とありますが、この書き方だと、事業所の規模を大きくするという意味と理解します。もし、市の意図が、サービス提供事業所の数を増</p>	<p>事業所数の増加のほか、サービス提供に係る従事者の増、サービス提供地域の拡大等についても、見込量確保のために必要であることから、「<u>事業所数の増加等</u>」に修正します。</p>	有

	やすということであるならば、「 <u>事業所数の拡大</u> 」の ほうが適切と考えます。		
--	--	--	--